



こんにちは

村田 けい子 です

2017
4.14
No 98

みなさんのご意見・ご要望をお寄せ下さい。フェイスブックやっています。

発行/日本共産党立科町議会議員 村田桂子 立科町塩沢1483 ☎0267(56)2868

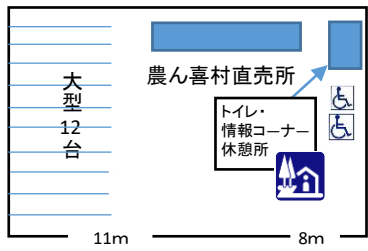


「蓼科農ん喜村」を道の駅に

—どこにトイレを置いたらいいか、現地調査を実施—

4・11議会全員協議会において、農ん喜村道の駅整備事業について、「トイレ・情報コーナーの位置を決めて」と議員全員で現地調査をしました。

望月からの国道から見て、左A案と右奥の位置B案とが出され、協議した結果、B案の位置がふさわしいと議員の大半が賛成しました。



右奥の案では、①大型バスを降りた観光客が、農ん喜村直売所の前を通ってトイレに行くことで、農産物やお土産が目に入る。

②身障者用トイレに近い ③「耕福館」へ上る坂道の脇にあり、浅間連峰が一望できる「信州ふるさとの見える丘」に誘導しやすいという利点が挙げられます。

トイレの数が、現在の計画では便器11基(男子小3・大1、女子6、オストメイト対応多目的1)となっており、これで大型が2・3台来た時に対応できるのか、と指摘し、増やすよう求めました。農ん喜村の中には、男子小5、大2、女子4、多目的1がありますが、夜間、農ん喜村が閉まった時には対応できない恐れがあります。

町は、上の耕福館のトイレも入れて、道の駅の基準を満たすとしていますが、ここも普段は利用できません。十分なトイレがなければ、最初から敬遠されてしまうのではないかと多くの議員が指摘し、大型バスの利用からはじいたトイレの数にすべきと求めました。また道の駅の名前も「公募すべき」の意見も出ました。

雨の日の現地調査だったことから、農ん喜村からの通路や身障者用駐車場からトイレへの通路には屋根を架けることも要望されました。

道の駅にすることで全国の道の駅(1,107)マップに搭載され、利用が高まることを期待できます。24時間機能する道の駅を作ることで、来町する人口を増やし経済の活性化につなげたいと思います。これをきっかけに、多くの方が直売所に農産物などを提供し、また利用が増えることを期待したいですね。

【道の駅の機能】

1. 休憩機能...24時間、無料で利用できる駐車場・☎・トイレ
2. 情報発信機能...道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供
3. 地域連携機能...特産品の販売、観光レクリエーション施設などの振興施設



皆様のご意見・ご質問をお寄せください。



佐久市議選、奮闘中！5名はみだしの大激戦です。知人にご支持をお広げくださ



4月9日告示、16日投開票で佐久市議選が行われています。

- 【共産党の3名の候補者】
- 小林まつ子 (現)
 - 内藤 ゆう子 (現)
 - 柳沢 まさお (新)

山口典久県議、小金沢由香衆院予定候補の応援を受ける小林まつ子市議候補。

佐久市では連続した国保税の値上げで、6世帯の1世帯が滞納世帯。その一方で30億円をつぎ込む大開発計画が持ち上がっています。

国保の引き上げストップ、高齢者のタクシー利用に補助制度を、子どもと障がい者の医療費無料制度の窓口完全無料化を掲げて頑張っています。お知り合いの方にご支持を広げていただければ幸いです。



手塩にかけた手前みそ

糀+塩+豆+愛情+時間=美味しい味噌

今週のパチリ

「9条を守るたてしなの会」で2回目となる「味噌づくり」が行われ、私も参加しました。丹精込めた手作りの『糀』と塩をよく混ぜてから(塩切)の中に豆のミンチを混ぜ込みます。煮立たせないよう静かに時間をかけて煮た『糀いらす』と呼ばれる豆はとても甘くてこのまま十分いただけます。力を入れて混ぜては丸め、また混ぜ込む。この作業を3回繰り返し空気を入れないよう桶の中へ。出来上がりは年末か。待ち遠しいですね。

農業協同組合新聞は23日付電子版で、「日本農業と農協のあり方を考える」と題するシリーズ企画で、日本共産党の志位和夫委員長へのインタビューを掲載しました。聞き手は、同新聞電子版のコラム(昨年12月28日付)で「隠れ共産党」宣言をして注目を集めた、岡山大学大学院教授(環境生命科学研究科)の小松泰信さんです。



小松泰信さん 志位和夫委員長

志位氏は、世界経済の対立軸について問われ、「多国籍企業の利益を第一におく経済秩序をつくるのか。それとも各国の経済主権、食料主権、国民の暮らしを相互に尊重する平等・互恵の貿易と投資のルールをつくるのか。これが対立軸だと思います」と語っています。

トランプ米政権の日本への影響について、軍事的役割の拡大と経済的譲歩を迫られる危険性を語り、日本が「米国従属外交でいいのかが、いよいよ問われていると思います」と指摘。野党共闘についても「大事なところで前向き的一致をつくる努力をすすめたい」と意欲を語っています。

志位氏は、農業を基幹産業と位置づけ、食料自給率を抜本的に引き上げていく党の農業再生プランを紹介。「一番のカギは農産物の価格保障と所得補償を組み合わせ、農家の皆さんが安心して再生産できるようにしていくことです」とのべています。

農協について志位氏は、「共同販売、共同購入、信用・共済などの金融、医療まで含めて、農村にとってかけがえのないインフラ機能を担っている組織です。金融事業を切り離すなどの『農協解体』攻撃は、とんでもないことです。協同組合の理念を守り、活(い)かしていくべきだと考えています」と明快に答えています。

小松さんは、「インタビューを終えて」で「野党共闘をめざし、歴史的決断を下した志位氏から発せられた言葉は、満身創痍(そうい)のJAグループを勇気づける」と強調。「誠実かつ慎重な発言から、政治家としての覚悟が伝わってきた。『日本共産党の農業再生プラン』は、多くの農業・JA関係者の腑(ふ)に落ちる内容である。このプランを機軸とした“共協戦線”の構築が、風雲急を告げる政局の行方を決する」と結んでいます。(しんぶん赤旗web版 3月30日)

《農協の役割について語っている部分をご紹介します。》 字が小さくてすみません。

◆協同組合の力に自信をもって

小松 農業関係でいうとこれまではTPPが大きな課題でしたが、これが漂流しました。これからの農業問題についてはどうお考えですか。

志位 2008年に「日本共産党の農業再生プラン」を出していますが、このプランを今日の情勢のもとで発展させたい。(中略)

わが党としては、農業を国の基幹産業として位置づけ、食料自給率をまず50%に引き上げ、さらに抜本的に引き上げていくことを農業政策の柱にすえています。その一番のカギとなるのは、農産物の価格保障と所得補償を合わせて、農家の皆さんが安心して再生産できるようにしていくことです。

欧米諸国と比べても、日本はこの部分が一番薄いのです。米国は自由競争といいながら、多額の輸出補助金などの下駄をはかせて所得補償して、輸出をしているわけです。日本もここにちゃんと国費を入れて、農家がまともに立ちゆく農業政策が必要です。後継者がなぜ集まらないかといえば、将来、農業で安心して人間らしい暮らしができるという保障がないからです。

協同組合の一番の理念は「助け合い」ですね。ユネスコでも世界遺産に登録されるなど、協同組合に光があたっています。競争至上主義ではなくて、ともに助け合い支えあうという協同組合がこれまで築いてきた伝統を力に、自信をもって頑張って活動してほしいと思います。

◆農協は農村支えるかけがえない組織

そして地方経済を支えているのは農林水産業、地場産業、中小企業です。ここに光をあてた政策が必要です。光のあて方も、強い者だけにあてるのではなく全体にあてなければいけないと考えています。そのときに農協の果たす役割は非常に大きいとも考えています。

小松 最後に全国の農協へのメッセージをお願いします。

志位 TPP反対では当初、全中が頑張っておられたし、共産党とも一緒にたたかった。その姿をみて、潰しにかかってきたのではと思います。だから、農協には頑張してほしいですね。

先ほどもお話ししましたが、金融部門も含めて総合的な農村のインフラとして農協が存在しているわけです。この金融部門を切り離したら国際的な金融資本の餌食になるだけ。農協は立ち行かない。

小松 そのときに農協の存在意義とか役割についてはどうお考えですか？

志位 農業協同組合は、共同販売、共同購入、信用・共済などの金融、医療まで含めて、農村にとってかけがえのないインフラ機能を担っている組織です。金融事業を切り離すなどの「農協解体」攻撃は、とんでもないことです。協同組合の理念を守り、活かしていくべきだと考えています。今日の新しい情勢の下で、ぜひ一緒に進んでいきたいと思っています。